

事業評価年次報告書 2005

人々とともに、明日へ

事業評価年次報告書

2005



独立行政法人国際協力機構

はじめに

国際協力機構(JICA)は、2003年10月の独立行政法人としてのあらたな出発から2年余りを経過いたしました。政府開発援助(ODA)の中心的な実施機関として、国民の皆様の期待に応え、開発途上国の経済社会の発展と平和構築に真に寄与する協力を行うために、JICAでは、「現場主義」「人間の安全保障」「効果・効率性、迅速性」を3つの柱として掲げ、組織・業務の改革を進めています。

事業評価は、JICAが国民の皆様の理解と支持を得つつ、より効果的・効率的な事業を実施していくための重要な手段です。このような認識のもと、JICAは上記改革の一環として、評価の拡充・強化、事業改善に向けた評価結果の活用(フィードバック)の推進、評価結果の公表体制の充実に取り組んでいます。

『事業評価年次報告書2005』では、JICAの事業評価活動と評価の拡充・強化に向けた取り組みを報告するとともに、評価結果をどのようにフィードバックしているかの具体例を掲載しています。

なお、評価結果の公表に関し、JICAでは2003年度からホームページを通じてすべての個別評価結果を迅速に公表する体制を導入しております。これにあわせ、まとまった情報提供の媒体である「事業評価年次報告書」では、個別評価結果の総括や、テーマ別の総合的な評価結果の掲載を通じて、JICA事業が効果的・効率的に行われているのかを報告してきています。

本年度の報告書では、個別評価結果の総括として、昨年度に続いて外部有識者事業評価委員会による2次評価結果を掲載しています。これは、JICAが主体となって実施した個別プロジェクトの終了時評価に基づき、評価の質を評価していただくとともに、第三者の視点で評価結果を再検証していただいたものです。

また、総合的な評価結果としては、JICAが「人間の安全保障」のもとで取り組んでいる、人々に届く援助やよりインパクトの大きな援助、さらに紛争後の支援の効果的な実施をテーマに行った、テーマ別評価結果の概要を報告しています。その1つとして、JICAにおける代表的な国民参加型事業である青年海外協力隊(JOCV)事業の評価結果も掲載しています。

本報告書が、JICA事業に対する皆様のご理解をさらに深める一助となり、皆様からのいっそうのご支援につながるものとなりましたら、こんなにうれしいことはありません。

最後になりましたが、本報告書の作成にあたりご協力を賜りました、外部有識者はじめ多くの方々に、改めて心より御礼申し上げます。

2006年3月

独立行政法人国際協力機構
理事 小島誠二

『事業評価年次報告書2005』掲載の評価調査対象国・地域





ミクロネシア

メキシコ

ドミニカ共和国

グアテマラ
ホンジュラス
エルサルバドル
ニカラグア
コスタリカ

パナマ

バルバドス

エクアドル

フィジー

バヌアツ

ペルー

ブラジル

ボリビア

パラグアイ

チリ

ウルグアイ

アルゼンチン

はじめに	3
第1部 JICAの事業評価	9
第1章 JICAの事業評価活動と評価の拡充・強化への取り組み	10
第2章 評価結果の活用による事業改善	22
第2部 プロジェクト・レベルの評価	29
2004年度個別案件評価の概況	30
第3部 プログラム・レベルの評価	51
テーマ別評価	
第1章 人々に届く援助に向けて	54
❶ 「参加型地域社会開発のジェンダー評価」	54
❷ 「ボランティア事業(青年海外協力隊事業)」—マラウイ、バヌアツ、ホンジュラスの事例より—	63
第2章 より大きなインパクトの達成に向けて	75
❶ 「アフリカ感染症対策研究」	75
❷ 「プログラム評価(ホンジュラス基礎教育分野)」	85
レビュー	
第3章 平和構築の効果的な実施に向けて	101
「平和構築支援 アフガニスタン支援レビュー」	101
第4部 外部有識者事業評価委員会による2次評価	111
外部有識者事業評価委員会による2次評価について	112
第1章 2005年度2次評価結果	113
第2章 JICAの評価と事業の改善に向けて(提言)	141
資料	145

図・表・BOX 一覧

図

1-1	ODAの体系図とJICAの評価	10
1-2	JICAの事業サイクルと評価の位置づけ	11
1-3	JICAにおける評価実施体制	13
1-4	評価結果の活用パターン	22
1-5	『開発課題に対する効果的アプローチ』と内容	25
3-1	本評価におけるジェンダー評価の枠組み	55
3-2	シェアツェンパホ地区における実施プロセスとジェンダー視点に 立った取り組み	57
3-3	ネパール村落振興実施プロセス	59
3-4	先進国(日本)の感染症対策における関連機関の相関関係	77
3-5	評価方法概念図	78
3-6	ケニアの感染症対策における関連機関の相関関係	79
3-7	評価の枠組み	87
3-8	教育セクター関連の開発戦略の流れ	89
3-9	JICA基礎教育強化プログラムの構造	93
3-10	教員学カテストの正答率分布比較	94
3-11	グイノベ地区教員の学カテスト結果	94
3-12	貢献に至るまでの概念図	96
3-13	レビューの枠組み	102
4-1	2次評価体制	114
4-2	評価項目別の評点	116
4-3	評価項目別の評点分布	117
4-4	各評価項目における視点の評価点	118
4-5	評価の質が高いとされた4案件	122
4-6	評価の質が低いとされた4案件	122
4-7	終了時評価の質の経年的変化	123
4-8	経過年による終了時評価の質の推移	124
4-9	2次評価者によるプロジェクトの評価	126
4-10	2次評価者によるプロジェクトの評価の評点分布	127
4-11	2次評価者によるプロジェクトの評価：視点	127
4-12	2次評価者によるプロジェクトの評価の経年的変化	128
4-13	分野別評価	129
4-14	地域別評価	129
4-15	2次評価者によるプロジェクトの総合評価	129
4-16	高く評価された4案件	130
4-17	低く評価された4案件	130
4-18	2次評価者によるプロジェクトの評価と終了時評価の質との関係	132
4-19	終了時評価の質の評価(群別)	132

表

1-1	評価5項目の視点	13
1-2	NGO-JICA評価小委員会メンバー	18
1-3	外部有識者事業評価委員	19
1-4	CDアセスメント・チェックシートの例	24
1-5	JICA課題別指針「水産資源の持続的利用」課題体系図と提言・教訓	27
2-1	事前評価	30
2-2	中間評価	33
2-3	終了時評価	33
2-4	案件別事後評価	35
3-1	プログラム・レベルの評価(2004年度実施案件)	52
3-2	評価対象案件	55
3-3	現地調査の対象者	56

表

3-4	派遣の概要	64
3-5	「帰国後に隊員活動経験を日本社会・国際社会へ還元すること」は どの程度重要と思うか	71
3-6	帰国時に隊員経験を日本社会・国際社会・任国のために生かすことを 考えていたか	71
3-7	価値観・意識の変化	71
3-8	行動の変化①「個人レベルの行動」「人材的貢献」	72
3-9	行動の変化②「隊員経験の紹介活動」	72
3-10	ガーナ野口記念医学研究所評価対象案件	76
3-11	ケニア中央医学研究所評価対象案件	76
3-12	ザンビア大学付属教育病院ウイルス検査室・結核検査室評価対象案件	76
3-13	KEMRIの感染症対策における機能	79
3-14	KEMRIの共同研究例	80
3-15	評価対象プログラムのおもな構成案件	86
3-16	ホンジュラス教育セクターにおける開発戦略概要	89
3-17	EFA-FTI計画の概要	90
3-18	EFA-FTI計画への政府・ドナーのおもな取り組み	92
3-19	CG体制のセクター別の主務官庁とリード・ドナー	104
3-20	各分野の重点事項と具体的プロジェクト例	105
4-1	2004年度と2005年度の評価視点の比較	115
4-2	2次評価項目	116
4-3	総合評点上位4案件と下位4案件における評点の平均	122
4-4	質が高いと評価された終了時評価	123
4-5	質が低いと評価された終了時評価	123
4-6	終了時評価の質の経年的変化	124
4-7	2次評価者によるプロジェクトの評価の経年的変化	128
4-8	総合評点上位4案件と下位4案件における評点の平均	130
4-9	2次評価者によって「大変良い」と判断されたプロジェクト	131
4-10	2次評価者によって「やや不満足」と判断されたプロジェクト	131
4-11	2次評価者によるプロジェクトの評価と終了時評価の質との 評価項目評点の相関	132
4-12	報告書の評価項目の評点	132

Box

BOX1	各種ガイドラインの作成—「アウトカム指標の考え方」	15
BOX2	開発途上国の評価能力の向上に向けて	16
BOX3	評価結果の総合分析—過去の教訓の体系化	17
BOX4	NGOとの協力—住民主体による開発の効果的な実施に向けて	18
BOX5	他の援助国・機関との合同評価—スマトラ沖地震・インド洋津波災害 支援(緊急支援)	19
BOX6	外部有識者による2次評価—案件別事後評価	21
BOX7	より効果的な南南協力支援の実施に向けて— テーマ別評価「南南協力」	28
BOX8	事例研究の結果得られたジェンダーエンパワメントの具体的事例	60
BOX9	対象国外部有識者評価	85
BOX10	そのほかのテーマ別評価の概要	100

付表

付表1	2005年度に実施した2次評価プロジェクト一覧	135
付表2	2次評価チェックシート	136